

教育広報

かけはし

第16号 平成6年9月30日発行
発行 千代田区教育委員会



水の中で電車ごっこ（お茶の水幼稚園）

主
な
記
事

- ☆ゆとりある充実した生活を
一生かそう学校週5日制—
- ☆スポーツ事業 参加者募集
- ☆古都に学ぶ 小学校鎌倉移動教室
- ☆みんながんばった 夏休み

夏休み、幼稚園のプールで水遊びをしました。

とても暑い日が続いたので、お友達がたくさん来ました。浮き輪やゴムボートを使って遊んだり、水の中でゲームをしたりしました。

また、小学校のプールにも入れてもらいました。早く、お兄さんやお姉さんのように、上手に泳げるようになりたいと思いました。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

ゆとりある充実した生活を

—生かそう学校週5日制—

第二土曜日を休みとする学校週五日制が始まってから、丸二年が経過いたしました。この間の成果を踏まえ、今後、休業土曜日を月二回に拡大していくとする流れの中で、子どもたちがさらにゆとりのある充実した生活を送れるよう、学校週五日制を生かしていきたいものです。

★小学生の体験Ⅰ

休業土曜日を利用して

六年 三原 茜

第一土曜日が休みになってから、家族で出かけることが多くなりました。

例えば、映画を見に行ったり、泊旅行へ行ったりもします。特に泊旅行は、休業土曜日からこそ出来るようになったことだと思います。日曜日だけでは、とても無理なことだと思いますから。

これからも、休業土曜日を利用して、家族で出かけたり、時には平日では出来ないことをじっくり考えたりするのいいと思います。

(富士見小学校)



★小学生の体験Ⅱ

家族のゆとりの時間

六年 西村真世子

一昨年から第一土曜日が休みになりました。その日は家族のゆとりの時間として使っています。私の父は千葉県で働いていて、家に帰れないことも多いので、休みの日には私たちが千葉に行くことにしています。

家族のゆとりの時間がふえたので、千葉に行かないときは一家そろってボランティア活動をすることもあります。学校は休みでも、一家だんらんが増えるのはいいことだと思います。

(お茶の水小学校)

★中学生の体験

第二土曜日の生活について

三年 加藤 真美

第二土曜日が休日になるようになってからずいぶん経ちましたが、だんだん時間を有効に使えるようになってきたと思います。

最初は、計画も立てずに休日を迎えてしまい、時間を持てあましていたこともしばしばありました。しかし、徐々に慣れていき、有意義な生活ができるようになりました。

例えば、ふだん運動をする時間をとることがむずかしいので、千代田区の総合体育館で水泳をしたりします。区の施設を利用する機会が多くなったので、自分達の街の新たな発見もたくさんありました。

また、毎日塾通いや習い事で忙しく、話す時間が減ってしまった家族とも、ふれあいの場を持てるようになりました。祖父田達のことや親せきのこと、学校であつたできごとや進路について話す時間があるので、とても楽しいです。

第二土曜日の休日についていろいろな意見があるようですが、生活にゆとりができて、私達にとって毎月が楽しみです。

(九段中学校)

★地域の行事に参加して

たかおさんハイキング

二年 皆川 祐太

イモリをみつけました。おなががまつかでした。ぼくは、とてもつかれましたが、がんばつてのぼりました。ちようじようについたら、とてもうれしかったです。おべんとうを食べたら、とてもおいしかったです。かえりは、ケーブルカーでしたから、らくでした。くつがどるだらけでした。たかおさんの山は、とてもたかかったのでびっくりしました。ぼくは、かぞくみんなでまだいきたいなと思っています。

高尾山のハイキング

(麴町小学校)

曇り空の中での出発でしたが、山を登り始めて間もなく、雨が降ってきました。

思ったよりも、長い道のりだったので、沢道だったり、足もとがすべりやすかったりして、小学二年の息子には少しきついものではと心配になりましたが、弱音を吐くこともなく、みなさまの暖かい指導のもとで、最後まで登りきれたことに、心から感謝しております。

これをきっかけにして、家族でい

ろいろな山に出かけたいと思っています。

新聞やテレビなどで、子供のいじめ、自殺、不登校などの悲しい報道が、あまりにも多いような気がします。今、子供達の世界は、教師・親達に様々なことを問いかけているような気がします。

子供達が自分の心を大切にしている社会、夢をかなえられる社会であるために、ひとりの親として、私自身問い直していきたいと思います。

(皆川祐太 母)

★地域の大人の眼から

子どもたちの声が街かどに

高山 剛一

公立の学校で学校週五日制がスタートして、九月で丸一年になりました。実施当初は、塾などの受験産業の過熱に拍車がかかるのでは、と心配されていました。

現在、私の家族には小・中学生はいませんが、週五日制の効果は、地域の子どもたちの様子から実感として感じることが出来ます。

私は、散歩をするのが好きなのですが、土曜日の午前中、近所の公園に散歩に行つたところ、人が通れないばかりの自転車が止まっています。公園の中では、十人位の小学生が元気いっぱい遊んでいました。日曜日以外の日に、このような子どもたちの姿を見かけると、「ああ、今日は第二土曜日なんだなあ。」としみじみ実感するのです。

「主体性のある子どもを育てる」という趣旨を考えると、週五日制の効果は次第に表われてきていると思います。今後は、さらに学年、学校といった枠を越えた交流の場、タテの関係を育てられる場を確保・充実させていくことが必要だと思います。

(猿楽町 在住)





スポーツ事業のご案内



スポーツの秋を迎えました。区内を歩いたり、フィールドアスレチックをして、いい汗を流してみませんか。

問合せは、スポーツ振興課事業係（内神田2-1-8 総合体育館内）☎(3256)8444まで。

ウォーキング イン 千代田

と き 平成6年10月30日(日)午前10時
外濠公園グランド出発
コース 外濠公園グランド～常盤橋公園
(約5km)
対 象 区内在住・在勤・在学者
参加費 無料
申込み 当日午前9時30分から外濠公園グランド前で受け付けます

フィールドアスレチック大会

と き 平成6年11月6日(日)午前8時45分
総合体育館前 集合・出発
会 場 横浜つくし野コース(予定)
対 象 区内在住(在学)者 80名
(小学生以下は保護者同伴)
参加費 無料(傷害保険料として1人200円)
申込み 所定の申込書に傷害保険料を添えてスポーツ振興課へ

一九九九年一月十三日、五十三歳でなくなった源頼朝は、幕府の北法華堂の上にほうむられました。今でも、そこに「英雄墓は苔むしぬ」とうたわれている簡素な五重塔があります。その墓は、鎌倉幕府の創設者としては、あまりにも貧弱です。

頼朝の墓

六年生は、社会科で日本の歴史について学習します。千代田区立の小学校では、「鎌倉移動教室」を実施し、直接、現地に立つて調べ、考えるようにしています。実施の時期や見学場所は、各校の学習計画によって決めます。時期としては、歴史の学習がスタートするとき、鎌倉時代の学習を進めているとき、歴史の学習のまとめの時期などです。また、見学場所は、学習内容や一日の日程を考え、頼朝の墓、政子の墓、建長寺、円覚寺、八幡宮、長谷観音、大仏などの中から決めます。子どもたちは、春の箱根移動教室などの成果を生かし、事前に十分調べてから現地へ出かけます。鎌倉の町では、古都の雰囲気を感じ、わくわく、できるだけ歩いて見学します。

古都に学ぶ

小学校 鎌倉移動教室



▲円覚寺を調べる(和泉小)

これは、江戸時代にゆかりのある島津氏が再建したものだと言われ、墓石にも島津氏の家紋が見られます。周囲には何も無く、本当に幕府を開いた人のお墓なのかなと思いました。お供えを置くところに、かすかだけれど田の家紋が見えました。でも、お供えがとてきれいに置いてあるので、観光地として訪れる人が多く、頼朝は安らかに眠っているかなと思いました。(昌平小学校)

★これからの勉強

―学校で考えていること―

「古池や 蛙とびこむ 水の音」という俳句を学びました。その時、先生は「蛙が一匹、池に飛び込んで、ポチャンという音がしました。その後は、再びもとの静けさが続きました。」と、静かな情景を強調されました。

でも、子どもの私が歩くと、蛙は驚いて何匹も池に飛び込みます。私の歩くペースに合わせて、何回もポチャンという音がするのです。そこで私は、池に群れている蛙の旺盛な生活ぶりを詠んだと、解釈することも可能だと考えました。

でも、ふと池のほとりに佇んで見ました。草いきれの中に身を置いてみると、虫や蛙の世界に自分も溶け込んでしまいます。すると、蛙はたまに一匹飛び込むだけで、ポチャンという音が静かな池に妙に調和するのです。それで、私は先生の解釈を納得することができました。

これまでの学校教育では、教科書と黒板、鉛筆とノートを多く利用して学習を進めていました。そこでは池のほとりに佇むゆとりがありません。



んでした。つまり、体験を通して子ども一人一人が考える学習が不足していたのです。この体験から学ぶということは、何も学校だけでしかできないというわけではありません。学校週五日制の実施によって、家庭や地域における体験が広がり、それを総合した形で、子ども一人一人の思考が深まれば、より豊かな人間が育つと考えています。

*さまざまな人との交流を

本を読む、テレビを見る、趣味を楽しむ、など休日の過ごし方はいろいろあると思います。子どもが、自分にあった活動を自分で選択し、充実した時間を過ごすことができるよう、子どもの発達段階や個性に応じ、家族が指導・助言してあげることが大切です。さらに、その活動を通じて共通の話題を持てる話し相手を探してみよう。自分の部屋にこもり、自分ひとりだけで楽しむばかりではなく、そうした話題をきっかけに、より多くの人々との交流の輪を広げてほしいものです。

*机から離れた勉強も

家族や友だちと展覧会を見に出かけたり、博物館を見学したりしてみよう。教科書だけでは興味を持てなかったり、理解できなかったことも、直接触れてみることで、興味と理解が深まるかもしれません。また、それがきっかけとなって、子どもたちの興味の幅が広がっていき、理想的です。その際、見学場所の選定や交通機関の選択なども含め、子どもたちが主体となって見学スケジュールをつくるといったことも、またとない勉強になります。

*ショッピングも大切な体験

日常の家庭生活の中にも、貴重な体験をするチャンスはたくさんあります。例えば、家の手伝いをしたり、家族と一緒に料理の材料、日用品などの買い物に行ったりしてみてもいいでしょう。家事にかかわる会話に加わる、店の人と会話を交わすなどといったように、生活と密接に結びついたナマの体験を積んでいくことも、学校だけでは得られない貴重なものです。

子どもが、自分に適したゆとりある充実した生活を送るためには、まず、子ども自身の活動しようとする意欲が大切です。それを支えるのが、家族の励ましと、地域の人々の協力です。親や地域の人々が子どもの体験の場を広げたり、家族が共に行動したりすることによって、自然と子どもの活動内容が豊かになっていきます。ここに掲げた事例を参考にし、地域や公共機関などの広報に目を光らせて情報を集め、計画を立て、家族全員が楽しみながら学ぶように心がけましょう。

きょういく 随想

「もうこの辺で子どもを休ませて！」という新聞記事が目にとまった。学校週五日制が定着し、時間的にもある程度余裕も出てきたのに、以前より勉強・勉強で、子どもが振り回されているというのである。これが実情であろう。こうした親の訴えに対して、各家庭でも、教育現場でも真剣に耳を傾ける必要があると思う。

私の勤務する幼稚園では、地域環境を生かして茶摘みや、サツマイモの苗の植えつけ・収穫等、体験保育を行っているが、その反響は実に大きい。「身近な環境は最大限保育に生かそう。」「常にまわりの自然に近づいていこう。」を保育の核にと考え、積極的に取り組んでいる。

「自然から学べ」とか、「自然を生かそう」とはいうが、その方法・実践の糸口はなかなか見つけない。

その解決の一つとして、ごく身近な自然に目を向けてみたい。都会のコンクリートの隙間にたくましく育つ野草、木に群がる虫など素材は多い。牛乳パックを花瓶にして、野草展を開こう。ビニール袋を持って、昆虫探検に行こう。空き缶、紙パック

を使った作品展、それを買ひ物ごこの商品にしよう。子どもから次々と新鮮な知恵が飛び出してくる。こうした作品や、自分で捕まえた虫をおみやげに降園していく子どもたちの笑顔は、実にさわやかである。最近、第二土曜日の欠席者が目立



生きた学習を

元 九段小学校校長
同 幼稚園長
島田良一



つようになつた。本園では学校週五日制を実施していないが、小学校の休みに合わせて、計画的に外出する家庭が多くなってきたからである。家族で近くの展覧会や体験・自然教室に行ったという話題が増えてきている。このような家庭では、新聞

や広報による地域情報を巧みに生かして行動している。

「夏休みだから自由研究を...」

この考えは今、通用しない。本当の自由研究は日々の活動の積み重ねである。勉強というものは、もっと身近なところに出発点があると思う。

子どもたちは素手でセミやトンボを捕まえ、自慢し合う。こうした活動を通して、自然と学ぶ力を身につけていくものである。

学校週五日制によって、子どもの学習意欲が殺がれるようであってはならない。子どもは、家庭でも学校でも、いかに自ら学ぶ力を身につけていくかが問われているときである。幼稚園を修了した子の中に、在園中の体験を生かして、休日の活用についてまとめた子がいた。その積極性と、親の良き先生ぶりに感心させられた。子どもが真の学ぶ力を身につけていくためには、これまで以上に家庭と学校（園）との深い連携協力が必要なことを痛感している。

しまだりょういち

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園長

随想

編集後記

夏休みも終わり、各校（園）では順調に二学期が始まりました。チャイムの音色が響きわたる校舎、歓声が戻った校庭から、子どもたちの健やかな成長ぶりが感じられます。

そんな折、第十六号では、夏休み中の子どもたちの生活ぶり、今後の学校週五日制への対応を中心に編集しました。子どもたちと同じ気持ちになって作文や写真をご覧いただき、それぞれに努力している様子を感じとっていただければ幸いです。

自然界では、夏の成長期から秋の結実期に入ります。灯火親しむ秋、勉強にもスポーツにも絶好の季節です。記録的な暑さに負けずにがんばった夏休みの成果を存分に生かして、例年にも増して実りの多い二学期にしたいものです。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。

教育広報「かけはし」第十八号
平成6年9月30日発行

編集発行／千代田区教育委員会

〒102 千代田区九段南1-6-11

☎(3264)0151 内3114